CONTENTS

Study Tour For School Teachers 2023

研修概要 …… 1･2

事前研修概要（国内研修） …… 3

事後研修概要（国内研修） …… 4

海外研修概要 …… 5

研修国概要 …… 6

主要なJICAプロジェクト紹介 …… 7

海外研修の様子 …… 8～10

参加教員による授業実践

小学校

横山 太（河内長野市立楠小学校） …… 12～17

藤澤 幸二郎（寝屋川市立堀溝小学校） …… 18～25

天下 若菜（京都市立竹田小学校） …… 26～36

酒井 春菜（神戸市立菅の台小学校） …… 37～45

竹辺 このみ（大津市立堅田小学校） …… 46～53

田端 浩多（天理市立朝和小学校） …… 54～61

中学校

内海 拓人（京都市立大淀中学校） …… 62～67

里見 拓也（大阪市立佃中学校） …… 68～76

金場 澄人（和歌山市立東和中学校） …… 77～82

高等学校

益田 由布子（兵庫県立舞子高等学校） …… 83～90

河本 陽詩（兵庫県立須磨東高等学校） …… 91～98

JICA の開発教育支援事業

独立行政法人国際協力機構（JICA）では、国際協力に関する知識の普及と国民の理解の推進を果たすべき使命の一つとしており、教育を通じたアプローチとして、国民への開発途上国に関する「知見の還元」、自分に何ができるかを「考える機会の提供」、およびJICAが地域での開発教育推進のための「橋渡し役」となることの3点に重点を置きながら国際理解教育・開発教育の支援に取り組んでいます。

JICA関西では、教育委員会や教員の皆様、大学や自治体、NGOの皆様と連携しながら所管地域である関西2府4県(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)を対象に、国際協力出前講座や、JICA関西施設訪問プログラム、教師海外研修、開発教育指導者研修等のプログラムを広く展開し、地域での開発教育・国際理解教育を支援しています。教師海外研修は、その一つです。

教師海外研修とは

1:研修概要

■研修目的

誰もが安心して暮らせる「だれ一人取り残さない」社会づくりは、世界でも、地域でも、そして学校でも共通する課題です。

教師海外研修は、関西2府4県の教職員が実際に開発途上国を訪問し、国際協力の現場の体験や開発途上国の現状・課題、日本との関係について理解を深め、その成果を、学校現場での授業等を通じて次代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらうことを目的として実施しています。

また、研修参加者がその経験を学内外に広く発信し、開発教育・国際理解教育の実践者として活躍いただくこともねらいとしています。

本年度は中南米・ペルー共和国を訪問し、JICAペルー事務所をはじめ、ペルー日系人協会、日本・ペルー地震センター、日系学校などを訪問しました。中でも日系学校への訪問や、現地の教員との出会いは、研修に参加された先生方の帰国後の授業実践にも活かされる機会となりました。

■主催
独立行政法人国際協力機構　関西センター（JICA関西）
■後援
関西2府4県ならびに政令指定都市の教育委員会
■参加人数
関西2府4県の学校教員11名

2:2023年度研修の流れ（全体スケジュール）

募集

●募集（4月上旬～5月下旬）　●結果通知（6月上旬）

事前研修

●第1次研修　2023年6月24日（土）　オンライン研修
●第2次研修　2023年7月1日（土）～2日（日）
研修の目的や参加意義を明確にし、本研修の効果を高めるため、開発教育や多文化共生に関する基礎講座・ワークを実施しました。

本研修

●ペルー海外研修　2023年8月12日（土）～20日（日）

事後研修

●2023年9月2日（土）
海外研修の学びを整理し、実践授業を検討するための事後研修を実施しました。

授業実践

●勤務校における授業実践（2023年9-12月・原則）
研修参加者は、研修の学びを各自の所属校における授業実践を通じて還元しました。

教師海外研修報告会

●2024年2月4日（日）
国際協力イベント「ワン・ワールド・フェスティバル」内にて実施

開発教育/国際理解教育の継続的な実施へ

事前研修概要（国内研修）

Study Tour For School Teachers 2023

●日時:2023年7月1日(土)～2日(日)(一泊二日)　●場所:JICA関西　オリエンテーションルーム
●目的:①研修目標の理解　②開発教育・国際理解教育の基礎を学ぶ　③派遣国概要を学ぶ

	時間	内容	講師／担当
7月1日(1日目)	10:00-11:15	**オリエンテーション** ・自己紹介　・海外研修趣旨の確認 ・事前研修目標の確認　・派遣国基礎概要(ペルー)	JICA関西 市民参加協力課 後藤田 蕗子
	11:30-12:30	**派遣国概要①「JICA海外協力隊体験談」** ・ペルー活動経験のある協力隊活動談　・現地の活動、生活 ・日本の先生方にいま知って・現地で見てもらいたいこと	JICA海外協力隊 松下 芽依 (2018年度1次隊、環境教育、ペルー)
	12:30-13:30	**昼休憩**	
	13:30-15:00	**派遣国概要②「日本の中のペルー」** ・ロクサナさんの来歴(日本での生活、ご経験) ・国内で行う活動について(定住者による外国人支援) ・海外で行う活動について(JICA草の根技術協力: 在日日系人が培った知識と経験を生かしたコミュニティ防災力強化事業)	ひょうごラテンコミュニティ 大城 ロクサナ
		休憩	
	15:10-16:10	**ワークショップ** 手法の紹介:フォトランゲージ「オチのある写真を撮ろう」	JICA関西 教師海外研修アドバイザー 兵庫教育大学 佐藤 友紀
		休憩	
	16:10−16:30	**現地研修:プログラム説明** ・各日プログラム詳細　・役割分担　・注意事項	JICA関西 市民参加協力課 後藤田 蕗子
	16:40-17:15	**振り返り** 事前課題:自分のリサーチクエスチョンを踏まえて ・今日学んだこと　・さらに理解を深めたいこと	JICA関西 教師海外研修アドバイザー 川崎医療福祉大学 山中 信幸 兵庫教育大学 佐藤 友紀
	17:15-17:30	**事務連絡**	
		JICA関西チェックイン	
	夕食後	**現地研修プログラム準備(続き)**	
7月2日(2日目)	9:00-12:00	**講義&ワーク「開発教育について」** ・開発教育とは?　・手法の紹介(ワークショップ体験)　・多文化共生の考え方	JICA関西教師海外研修アドバイザー 川崎医療福祉大学 山中 信幸 兵庫教育大学 佐藤 友紀
	12:00-13:00	**昼休憩**	
	13:00-14:00	**過年度参加者からの報告** ・教師海外研修の経験、帰国後の教育活動 ・参加者へのメッセージ	倉 公一 (2017教師海外研修、ネパール) 木村 あずさ (2019教師海外研修、ルワンダ)
	14:00-15:00	**現地研修:アウトプット準備** 現地のアウトプット内容、今後の準備スケジュールの検討	JICA関西 教師海外研修アドバイザー 川崎医療福祉大学 山中 信幸 兵庫教育大学 佐藤 友紀
		休憩	
	15:10-17:00	**講義&ワーク「授業実践に向けて」** ・教材づくりの考え方の紹介　・自分自身の関心事項の見直し ・授業実践に向けて必要な素材の整理	JICA関西教師海外研修アドバイザー 川崎医療福祉大学 山中 信幸
	17:00-17:30	**事務連絡** ・海外研修に向けて(諸注意、役割分担再確認)　・今後のスケジュール　・流れ	JICA関西 市民参加協力課 後藤田 蕗子

事後研修概要（国内研修）

●日時:2023年9月2日(土)　●場所:JICA関西　オリエンテーションルーム
●目的:①本研修の学びの振り返り　②実践授業に向けた意見交換　③実践ヒントの共有

	時間	内容	講師／担当
9月2日	10:00-12:00	**ワークショップ①** (1)海外研修の振り返り ・日誌をもとに、日々のできごとを思い出す (2)学びの整理 ・ペルーと日本(つながり、日系社会) ・防災 ・ペルーという国(予想外びっくり含む)	JICA関西 教師海外研修アドバイザー 兵庫教育大学 佐藤 友紀 川崎医療福祉大学 山中 信幸
	12:00-13:00	**昼休憩**	
	13:00-13:30	**グループワーク** 「アイデンティティ」の要素ってなんだろう?	JICA関西 教師海外研修アドバイザー 兵庫教育大学 佐藤 友紀
	13:30-14:30	**ワークショップ②** リサーチクエスチョンに沿ってふりかえる ・児童・生徒に伝えたい内容・キーワードの整理 ・意見交換	JICA関西 教師海外研修アドバイザー 兵庫教育大学 佐藤 友紀 川崎医療福祉大学 山中 信幸
	14:45-16:30	**ワークショップ③** 授業実践に向けてのプランニングと意見交換 ・具体的に書き出す(テーマとメッセージ/学年/時間数/内容/手法 など) ・相互のブラッシュアップと全体共有	JICA関西 教師海外研修アドバイザー 兵庫教育大学 佐藤 友紀 川崎医療福祉大学 山中 信幸
	16:30-17:00	**事後連絡** (1)報告書作成と今後の流れ (2)事務連絡	JICA関西 市民参加協力課 後藤田 蕗子

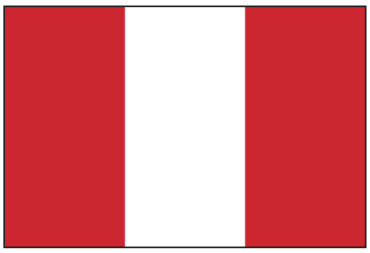
事後研修

海外研修概要

目的:JICA事業や国際協力への理解深化を通じて、世界に関心を向ける/世界と日本との関わり、日本国内の多様性に気づく(多文化共生)/防災等の世界共通の開発課題に気づく

実施日		時間	訪問先	内容
8月12日 —8月13日	土—日		伊丹—羽田—アトランタ—リマ	
8月14日	月	9:00	ペルー事務所訪問	【地区名:San Isidro】 JICAペルー事務所
		14:00	・ペルー日系人協会(APJ) ・日本人ペルー移住史料館 "平岡千代照"	【地区名:Jesús María】 JICA海外協力隊/田辺さん(日本語教師)
8月15日	火	9:00	ホセ・ガルベス校	【地区名:Callao】 当地最古の日系校 JICA助成金交付事業(2021年度)
		14:00	ホセ・ガルベス校	ホームビジット
8月16日	水	9:00	ラ・ウニオン校	【地区名:Pueblo Libre】 当地最大の日系校 JICA助成金交付事業(2021年度)
		14:00	ラ・ウニオン校	ホームビジット
8月17日	木	9:30	日本・ペルー地震防災センター(CISMID)	【地区名:Rímac】 CISMID内の防災啓発センター、 構造物ラボ、 地震モニタリングセンター
		14:00	中央広場(Plaza de Aramas) 大統領官邸(Palacio Presindecial) 現地市場(Mercado Surquillo)	地区名:Centro de Lima 地区名:Surquillo
8月18日	金	9:00	ミ・ペルー地区	【地区名:Callao】 草の根コミュニティ防災プロジェクト JICA海外協力隊/柏木さん(防災)
		15:00	振り返り	JICAペルー事務所
8月19日 —8月20日	土—日		リマ—ロサンゼルス—羽田—伊丹	

研修国概要（ペルー）



ペルー共和国
Republic of Peru

●首都:リマ

●面積:約129万平方キロメートル(日本の約3.4倍)

●人口:約3,297万人(2020年、世銀)

●民族:メスティソ(混血)60.2%、先住民(ケチュア、アイマラ、アマゾン先住民等)25.8%、白人系5.9%、アフリカ系3.6%、その他(中国系、日系、その他)4.5%
<2017年ペルー国勢調査>

●言語:スペイン語(他にケチュア語、アイマラ語等)

●宗教:カトリック81%、プロテスタント13%、その他6%

●政体:立憲共和制

●GDP(名目): 2,020億ドル(2020年、世銀)

●一人当たりGDP: 6,127ドル(2020年、世銀)

●通貨: ソル

●日本の援助実績:
①有償資金協力(2019年度まで、借款契約ベース)4,216.00
②無償資金協力(2019年度まで、E/Nベース)673.97
③技術協力実績(2019年度まで)585.09
<単位:億円>

●主要援助国(2017年度):
①ドイツ(209.48)
②米国(142.88)
③フランス(92.39)
④日本(21.07)
<2020年、OECD／DAC統計、支出額ベース、単位:百万ドル>

https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/peru/index.html

主要なJICAプロジェクト紹介

ペルーは、世界的な鉱物価格上昇に伴う鉱物資源の輸出拡大等に牽引され、安定した経済成長を続けています。一方、依然として貧富の格差が大きく、国民の3割以上が貧困層に属しています。
JICAは、**❶経済社会インフラの整備と格差是正、❷環境対策、❸防災対策を重点分野としてペルー政府の社会的包摂を伴った持続的な発展に向けた取り組み**を支援しています。

地震直後におけるリマ首都圏インフラ被災程度の予測・観測のための統合型エキスパートシステムの開発

●実施期間:2021年9月8日から2026年9月7日

ペルーは、地震・津波が多発する国のひとつです。これまで大地震が複数回発生し、いずれも多くの死傷者と経済被害をもたらしており、持続的開発の弊害となっています。特に、同国総人口の3割強を占めるリマ首都圏で大地震が発生すれば、主要な社会インフラやライフラインへの深刻な被害は免れません。この協力では、リマ首都圏において、地震・津波発生時の被害予測の高度化、建築物・ライフラインの被災度即時評価システムの確立により、それらの情報を統合したエキスパートシステムの構築及びシステム活用のための人材育成を図り、ペルーの地震・津波に対する災害対応能力強化(二次被害の低減及び復旧・復興の迅速化)に寄与することを目的としています。

©CISMID

在日日系人が培った知識と経験を生かしたコミュニティ防災力強化事業

●実施期間:2023年1月～2028年1月

ペルーは環太平洋地震帯に位置する地震・津波多発国であり、これらの災害は同国の社会・経済に大きな被害をもたらし、同国の持続的な発展の阻害要因となっています。そのような状況の下、兵庫県神戸市にある特定非営利活動法人エフエムわいわいは、一般社団法人ひょうごラテンコミュニィと共に、ペルーの中でも特に災害リスクの高いカヤオ特別郡ミ・ペルー区におけるコミュニティ防災力強化を目的とした草の根技術協力事業を実施しています。
本事業は、区内の住民有志が立ち上げた自主防災組織、ミ・ペルー区H地区近隣災害リスク管理委員会(CVGRD)と、同じく区内で就学前、初等、中等の教育を行う公立教育機関、フェ・イ・アレグリア第33校(FA33)をカウンターパートとして、現地の人々と協働して避難訓練や防災教育を行うことにより、地域のコミュニティ防災力向上を目指しています。

日系社会連携事業

ペルーは南米で組織的な日本人移住を最初に受け入れた国で、1899年(明治32年)ペルー第一回移民790人が横浜港を出港(佐倉丸)して、同年4月3日にカヤオ港に第一歩を記したのが始まりです。戦後は、2,615人が移住。現在でも約10万人とも言われる中南米で2番目に多くの移住者・日系人が在住しており、政治・経済・学術など各方面で活躍しています。JICAは、日系社会のさらなる発展とペルーの国造りに貢献するため、日系社会研修員受入事業や日系社会次世代育成研修を通じて、移住者・日系社会連携事業に取り組んでいます。

海外研修の様子ー1

【JICA関西教師海外研修　現地レポート①】
JICA関西は、開発教育・国際理解教育に関心を持つ関西圏の教職員を対象に、開発途上国現地を訪問し、現地事情や日本との関係への理解を深め、その成果を国内の教育に役立てる機会を提供することを目的として「教師海外研修」を実施しています。
今年度は、日本との国交樹立150年を迎えた南米・ペルー共和国を研修国へ、関西二府四県から11名の小学校・中学校・高校教員らが訪問します。次回からは、新型コロナウィルス感染拡大の影響を経て4年ぶりに開催される海外研修の様子を、参加者による現地レポートでお届けします。

最初に
ペルーを意識した瞬間：
空港の看板

APJエントランスホール

【JICA関西教師海外研修　現地レポート②
1日目：JICA事務所～ペルー日系人協会】
8時40分に出発、9時にはJICAペルー事務所を訪問。それからペルー日系人協会（Asociación Peruano Japonesa, APJ）へ移動。
APJは日系人の外国にあるサテライト支店のような機能のものかと想像していたがさにあらず。日本語教育だけではなく、劇場、武道場、図書館まで併設しており、その規模と、かつてペルーに移住した日本人の思いを後世に伝えようとするその熱意に驚く。館内のペルー移住資料館では、館長自ら日本語で案内をしてくださった。
APJの職員の方々に明るくおもてなしていただき、APJを通して日本の学校とペルーの公立学校とをオンラインで交流してみたいと話して下さった。わが校でも許可を受けられ、体制が整えば、そのような交流をしてみたいと感じた。
子どもには国境がないので、ペルーに限らず、いろいろな国と交流ができる時代が来ている。きっかけさえあれば、いろいろな国の人とオンラインで交流ができる時代にあり、交流を子どもの時代の間にさせてあげたい。さすれば、友達がいる国と戦争などしようと思わないと思う。
(河内長野市立楠小学校　横山 太　先生)

【JICA関西教師海外研修　現地レポート③
2日目：ホセ・ガルベス校訪問】
今回訪問したホセ・ガルベス校はペルー最古の日系学校で、元々は「カヤオ日本人学校」として設立されました。現在同校に通う日系人は10%以下で、約380名の生徒の多くは地域の子どもたちです。
地域全体へ質の良い教育を行うために様々な取り組みを展開しており、代表的なものが日本式の教育に基づいた「5S」にあると校長先生からお話がありました。
「5S」とはSeiri/Seiton/Seisou/Seiketsu/Shitsuke のことで、2016年から導入され、家庭・地域・・地元企業に広がっているそうです。日本が大切にしてきた価値観がペルーの学校でも根付いていることに感銘を受け、その重要性を再認識することができました。
今回は3つの授業実践を行いました。その3つ目は、小学校5年生を対象にした日本文化の体験授業です。今回の授業が子どもたちの記憶に残り、いつか人生に役立つことを願っています。
また、その日は2007年に発生したペルー地震に因んだ全国避難訓練がありました。校内では全員が集合した後、担任教師を中心としたリラックスのための体操をしているのが印象に残りました。日本の避難訓練でも、身の安全確保だけでなく、安心も保持する必要性を感じました。
前日のペルー日系協会で学んだ、私たちの祖先がペルーに移住し、その後、日系社会が長い歴史の中でペルーに貢献してきた事、その歴史が現在も日本とペルーの強い繋がりにつながっている事が感じられました。
出会った子どもたち、そして次の世代の方々にも、平和で安心な学校教育がなされるよう、強く願っています。
(大津市立堅田小学校　竹辺 このみ　先生)

日本とペルーの
学校の違いへの感想を
うちわで示して
もらいました!

海外研修の様子ー2

【JICA関西教師海外研修　現地レポート④
2日目：ホセ・ガルベス校でのホームビジット】

私たちのホストファミリーのご自宅へお母さんと子どもたちと一緒に帰宅。家ではお姉さんとお父さん、おばあさんがお出迎え。着くとすぐにウェルカムドリンクをいただき、日本やペルーでの暮らしや過ごし方についてスマホの翻訳アプリを駆使してたくさん話しました。同行した横山先生からはリコーダーで演奏のプレゼントも。演奏のお返しに、現地の音楽を教えていただきました!

子ども部屋では、ペルーで大人気の日本のアニメのグッズを嬉しそうに紹介してくれる様子が可愛かったです。ひとしきり話した後はペルー料理を作ってくださりました。みんなで味見をしながら作ってくださる様子を見ながら、僕たちも笑みがこぼれます。お味はもちろん…絶品でした。

Macharé家では、お母さんが色々なことを教えてくれたり、質問してくれたりと、お邪魔させていただいた僕たち二人だけでなく、家族全体を明るくしてくれていました。そしてお父さんが子どもたちの宿題を教えてあげたり、家族全員で一緒に台所に立ったりと、とても仲の良い家族でした。持って行った以上のお土産を逆にいただいてしまい、本当に温かい気持ちになる素敵な時間を過ごすことができました。Macharé家の皆様、ありがとうございました。

(京都市立大淀中学校　内海 拓人　先生)

【JICA関西教師海外研修　現地レポート⑤
3日目：ラ・ウニオン校への訪問】

この日は、ペルー最大規模を誇る日系校であるラ・ウニオン校を訪問。防災に関する授業実践を行い、子どもたちが真剣に学ぶ姿と、子どもたちの防災意識の高さに驚かされました。今回の私たちの授業がペルーでの防災につながることを願っています。

また、日系校としての矜持を感じるマルティネス校長の発言として、「日系人の日系校設立は愛の物語です。」との言葉がありました。日系人はペルーへの移住後、様々な困難に見舞われていました。でも、そんな彼らが奮起し、学校を設立したのは、次世代の日系人の幸福を願ってのことだということです。

今回の訪問を通じて、日系人が日系校を設立した歴史的背景やメンタリティをうかがうことで、日系人がなぜペルーで様々な事業を展開し、ペルー社会に貢献するに至ったのが明確になりました。

このような歴史的背景を聞いて、日系校に対する自身の見方が変化したように思います。ラ・ウニオン校では、現代的な教育の方法として国際バカロレアの認証を受けることやGoogle Workspaceをツールとして活用する、国際バカロレアの単位として日本語の科目を認定するなど様々な取り組みが行われていますが、すべてはこれから世代の子どもたちの幸せを願ってのことだという事がよくわかりました。

先生の立ち振る舞い、授業の技術、子どもたちの姿、課題を受け止め継承していく学校のあり方に、教育者として感銘を受けました。

(大阪市立佃中学校　里見 拓也　先生)

【JICA関西教師海外研修　現地レポート⑥
3日目：ラ・ウニオン校ホームビジット】

ラ・ウニオン校を訪問した夕方からは、同校の職員宅でホームビジットを実施。近くのスーパーにて買い物の後、夕食を共にさせていただいた。

ホストファミリーに調理いただいた、ペルーの名物料理であるセビーチェ(ペルーの伝統料理である、魚介類のマリネ)の味は格別で、話しながら料理する様子を見せていただいたおかげで、料理好きの自分にとっては帰国後にぜひ挑戦してみたいと思うものであった。

訪問先の家族(父・母〈ラ・ウニオン校職員〉・娘・息子)とはいろいろなことを話した。多民族国家と言われるペルーでは、先住民とスペイン人の混血人種であるメスティソが中心であるが、ホストファミリーのご家族の先祖はおそらくヨーロッパ系であると思われる。お互いの家族のことや、訪問先のご息女がアイルランドに留学することなど、多くのことを話し、非常に良い時間を過ごすことができた。

(和歌山市東和中学校　金場 澄人　先生)

海外研修の様子ー3

【JICA関西教師海外研修　現地レポート⑦
4日目：日本・ペルー地震防災センター（CISMID）】

この日は日本・ペルー地震防災センター（CISMID）へ。1986年に日本の協力によりペルー国立工科大学内に設立された、都市防災計画や防災技術の研究・普及等を行う機関で、ペルーにおける防災対策の現状をお聞きしました。まず、ペルーの80%の建造物は耐震性がないこを危惧し、起こりうる大きな地震を予想して浸水マップを作ったり、災害に対する意識を向上させるための防災教育を行ったりしていることをお聞きしました。ペルーでは、自治体が十分に管理できてない脆弱な家がたくさんあり、脆その壁をどうすれば補強できるかという研究も行っているそうです。壁の強度を調べる実験や、土壌が圧力にどれだけ耐えることができるかの研究など紹介していただきました。

違法な場所に違法な方法で建築している人たちが災害に見舞われたとき、「自業自得」と考えるのではなく、その人たちの身の安全を危惧した防災対策は、心に響くものがありました。

ペルーの方々が多くの国々から移民を受け入れた歴史や、移民の方々と共に発展を遂げた社会的背景を理解しているからなのでしょうか。CISMIDの方々が日本からの技術移転協力などに感謝の意を表されつつ、「自分たちが率先して頑張ることで少しでも多くの人を救いたい」という志向をもっておられるのが素晴らしいと感じました。

(京都市立竹田小学校　天下 若菜　先生)

壁の耐震実験を行う施設

学校の様子と、砂山に多く建設される住居

【JICA関西教師海外研修　現地レポート⑧
5日目：ミ・ペルー地区　フェイアレグリア33校訪問】

活動最終日となる今日はミ・ペルー地区の公立校、フェイアレグリア33校（以下FA33校）に訪問した。到着した学校で早速歓迎セレモニーへ。私たちがステージに上がると、熱狂的な大歓迎。セレモニーが終わり、子供達がステージ上の私たちの方に駆けつけてくれた。言葉はうまく通じない中でも、ハイタッチをして、ハグをして、疲れが癒されるとても幸せな時間だった。

その後は学校中を案内してもらい教師同士の防災教育に関する意見交換。FA33校のプレゼンテーション、学校紹介、ミ・ペルー地区に対する防災、各教室の防災について話があった。

日本側からも各校・地域での取り組みを発表する。FA33校はJICA関西のプロジェクトで日本の防災教育を学んでいると聞いたが、むしろこちらの方が学ぶことが多いのではないかと圧倒され、充実した会だった。

FA33校への訪問を通して印象に残ったのは何度も出てきた「愛」という言葉だ。

歓迎セレモニーでは、「少しの愛で物事が簡単になる」という言葉を子供達が唱えていただけでなく、言葉の端々に「愛」があった。

私にはその言葉が重みを持って感じられた。それはFA33校の防災教育に「愛」を感じて取れたからだ。

子供達がいざという時に命を守り生き抜くための力を育むFA33校の先生方の教育に、私は大きな愛を感じた。

目の前の子供達に生き抜く力を身につけようと懸命な先生方の姿に、一教師として学ぶことの多い1日だった。

(神戸市立菅の台小学校　酒井 春菜　先生)

【JICA関西教師海外研修　事後研修】

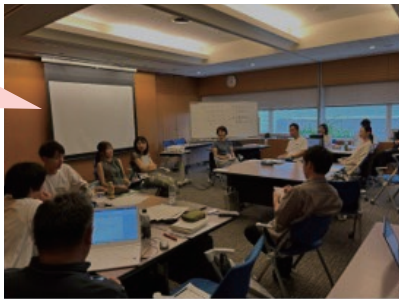
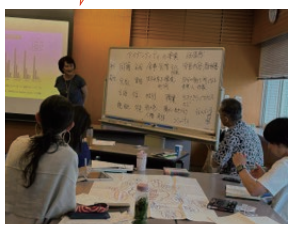
海外研修の学びを更に深める事を目的に、帰国後はJICA関西で「事後研修」を行いました。参加教員は、研修スケジュールを振り返り何を感じ、何を学んだかを共有しました。「経済格差」や「ベネズエラ難民」などのキーワードから現地では気づかなかった疑問点や、日系コミュニティの貢献により日本に肯定的なイメージを持つ人が多いと感じたなど、様々な気付きについて考えました。

午後からは、「アイデンティティ」を題材に多文化共生について考えるワークを行いました。日本人というアイデンティティは、どのようなものなのか。国籍、宗教、言語、文化などどのような要素がその人のアイデンティティになるのか。多民族国家であるペルーでの経験を切り口に議論しました。

最後に、海外研修で自らが立てたリサーチクエスチョンを振り返り、日本での授業実践に向けた授業構成や生徒に伝えたいメッセージなどについて意見交換を行いました。

現地で見て、感じたことは個人によって様々であり、日本とペルーの比較を通じた異文化理解、幸せとは何か・自分とは何かを考えることなど、様々なアプローチによる開発教育・国際理解教育の実践、ひいては生徒の多様性や異文化理解につなげることができます。「子どもたちの多様性を広げる教育とは何か」、先生たちの学びは、これからも続きます。

纐纈 響七（JICA関西市民参加協力課　インターン）



事後研修